

なぜハイヒールを

大津 隆文

最近ある外国映画を見ていてふと疑問が浮んだ。登場する女性達が不安定で疲れそうなお高いハイヒールを履いているのは何故だろうか。容姿をアピールするためなのか、社会の慣習がそれを求めているためなのか。

同様に男性は何故窮屈なネクタイを締めているのだろうか。リタイアしてネクタイから解放されると本当に楽だ。さらには、何故あえて刺青を入れたり髭を生やすのだろうか。

背景に異性の存在があるのでは、との思いから『クジャクの雄はなぜ美しい？』（長谷川真里子著）をひもといた。動物の世界では異性を巡る競争は二種類あるそうだ。一つは雄間競争で、ライオン、シカ、カブトムシ等オス同士の争いに勝った強い雄が雌を手に入れる。もう一つはメスによる選り好みで、クジャク、カエル等姿や鳴き声により雌が雄を選択する。雌の関心を買おうと雄は必死でアピールする。

いずれの場合も雌の方が優位に立つのは、卵子の生成、子育てに時間がかかるためらしい。つまり精子の方が相対的に供給過剰というわけだ。

動物のケースを人間に当てはめれば、女性は着飾ったりお化粧をしたりする必要はない。そうならないのは人間には文化、社会の男女観があるからで、それが妥当かどうかは時代で変わりうる（例えば丁髷、お歯黒、コルセット等）。

男女の違いにはセックス（先天的、生物的）とジェンダー（後天的、社会的）の二つがあるとされる。そして後者はこれを認めない方向にあり、最近はフンドセルの色、学校や職場の制服も従来型の男女差は取り除かれつつあるようだ。

私には伝統的な男女観が染みついている、男らしい、男だから、男のくせに、という思いがついて出てきてしまう。要注意で、背景に差別意識がないかどうかよく思案しなければいけない。「男は女を守るべき」というのは生物的体力差を前提にしているからセーフだろうか。「男は泣くな」というのは既成の男女観でアウト、女は女々しいなど夢にも思ってはならない。

今後避けては通れない本当に難しい問題だ。